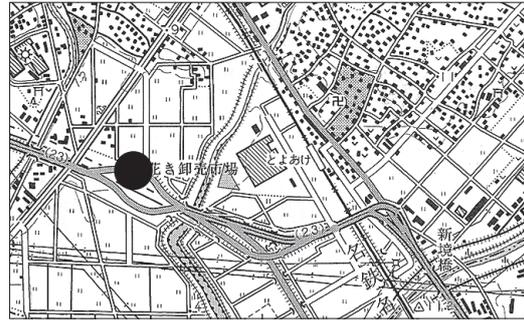


おおわき
大脇城遺跡

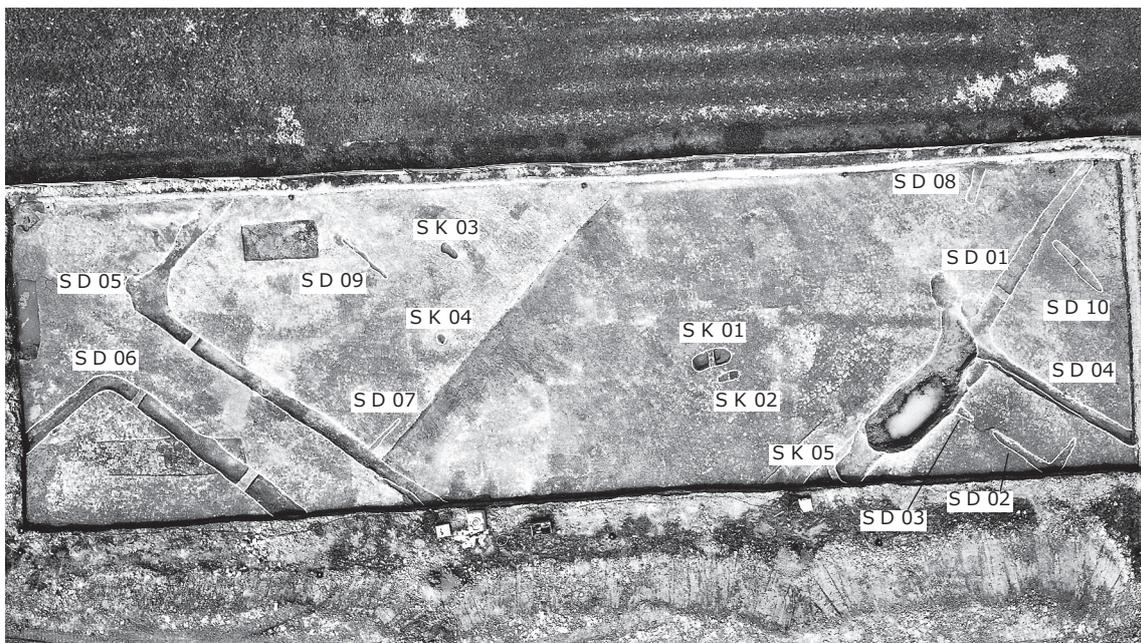
所在地 豊明市栄町梶田及び元屋敷地内
 調査理由 第二東海自動車道関連施設の建設
 調査期間 平成11年4月～5月
 調査面積 750㎡
 担当者 木下 一・池本正明・竹内 睦



調査地点 (1/2.5万「知立」)

調査の経過 調査は、第二東海自動車道関連施設の建設に伴う事前調査として、建設省及び日本道路公団より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成11年4月～5月に実施した。本年度は、750㎡の1区画を調査した。

調査の概要 大脇城遺跡は豊明市栄町梶田及び元屋敷地内に所在する。尾張・三河の国境を流れる境川の支流である正戸川右岸の平坦な沖積地に立地する。平成8・9年度に実施した発掘調査で、16～17世紀の城館跡を中心とする遺跡であることが判明している。今年度の調査は、平成8年度に実施した調査区の北東部分にあたり、過年度調査と同じく、遺構検出面は3m前後である。遺構・遺物とも希薄であるが、埋土の状況や軸線方向等が過年度調査結果に符合するため、「大脇城跡」の一部を構成するものと考えられる。遺物はSD 05、06からの出土が多く、そのほとんどは土器・陶磁器類である。また、韃の羽口も出土しており、城館の周辺部を構成していた遺跡と考えられる。(竹内 睦)



調査区全景